

**令和6年度
三島市**

**地域福祉計画策定のためのアンケート調査
【報告書】**

<抜粋版>

**令和7年3月
三島市**

目次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査方法	1
4. 抽出方法	1
5. 調査期間	1
6. 回収状況	1
7. 報告書を見る際の注意点	1
II 調査結果	2
①福祉との関わり	2
②福祉への関心	2
③福祉についての情報や知識の主な入手先	3
④地域だと考える範囲	3
⑤近所付き合いの考え方	4
⑥地域内の行事や自治会活動への参加・協力	5
⑦日々の生活で困っていること、悩みや不安を感じていること	6
⑧地域生活の中での悩みや困りごとの相談先	7
⑨助けが必要になったときに地域にしてほしい支援	8
⑩災害時や緊急時の連絡のとり方や避難の方法などについての誰かとの話し合い	9
⑪地域における災害時の備えとして重要だと思うこと	10
⑫地域での支え合いへの参加	11
⑬ボランティア活動への参加	11
⑭地域がより住みやすくなるために必要な活動	12
⑮三島市社会福祉協議会の認知	13
III 結果からみえる課題	14
①福祉との関わりについて	14
②福祉への関心について	14
③福祉についての情報や知識の主な入手先について	14
④近所付き合いの考え方について	14
⑤地域生活の中での悩みや困りごとの相談先について	14
⑥災害時や緊急時の連絡のとり方や避難の方法などについての誰かとの話し合いについて	14
⑦社会福祉協議会の認知について	14

I 調査の概要

1. 調査目的

「第5次三島市地域福祉計画」及び「第5次三島市地域福祉活動計画」の策定にあたり、市民の地域活動への参加状況や日常生活で感じていることなどの意見を把握し、基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査対象

三島市内に在住する満15歳以上の方

3. 調査方法

郵送配布、郵送またはWE B回収

4. 抽出方法

無作為抽出

5. 調査期間

調査期間：令和6年8月20日（火）から令和6年9月6日（金）まで

6. 回収状況

発送数	回収方法	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000票	郵送	717票	714票	48.7%
	WE B	260票	260票	
	合計	977票	974票	

7. 報告書を見る際の注意点

①基底となるべき実数はnとして記載しています。

②比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。

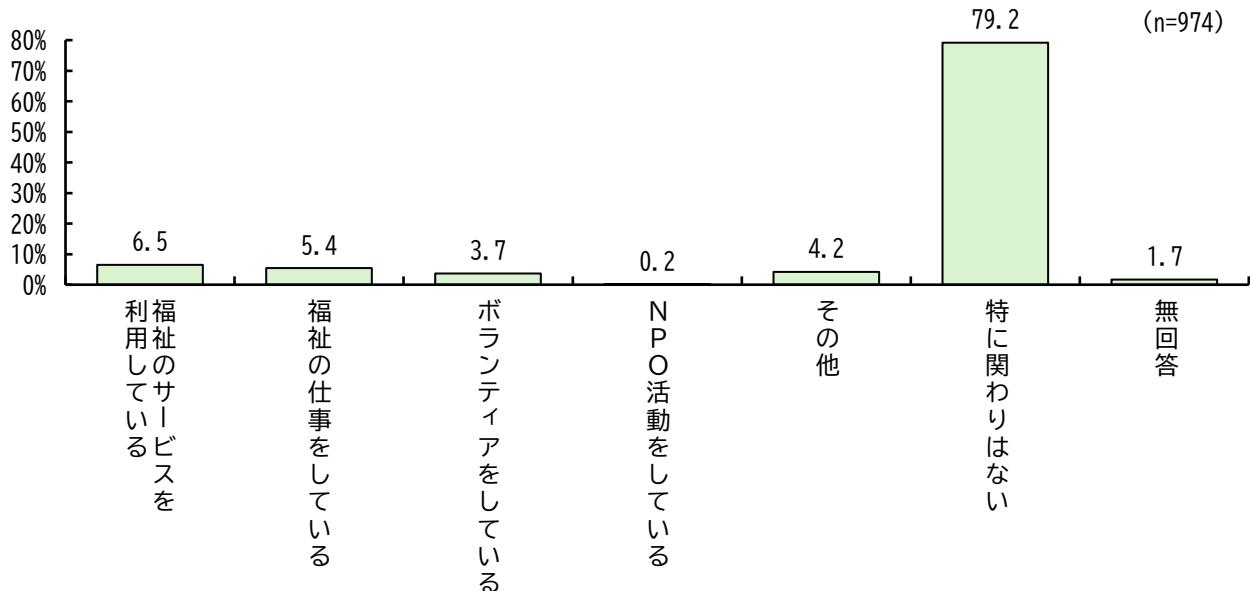
そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。

③複数回答可能な設問の場合、回答比率の合計が100%を超えることがあります。

II 調査結果

①福祉との関わり

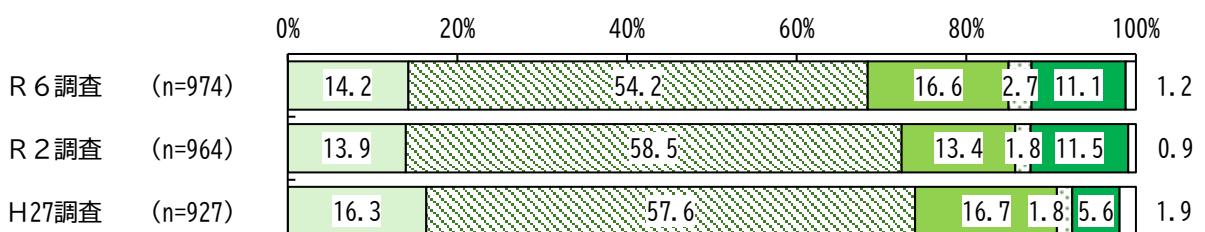
問8 あなたは福祉と関わりがありますか。 (○はあてはまるものすべて)



福祉との関わりでは、「福祉のサービスを利用している」が6.5%と最も多く、次いで「福祉の仕事をしている」が5.4%、「ボランティアをしている」が3.7%などとなっています。また、「特に関わりはない」が79.2%となっています。

②福祉への関心

問9 あなたは「福祉」に関心がありますか。 (○は1つだけ)



■ とても関心がある ■ ある程度関心がある ■ あまり関心がない
■ 全く関心がない ■ わからない ■ 無回答

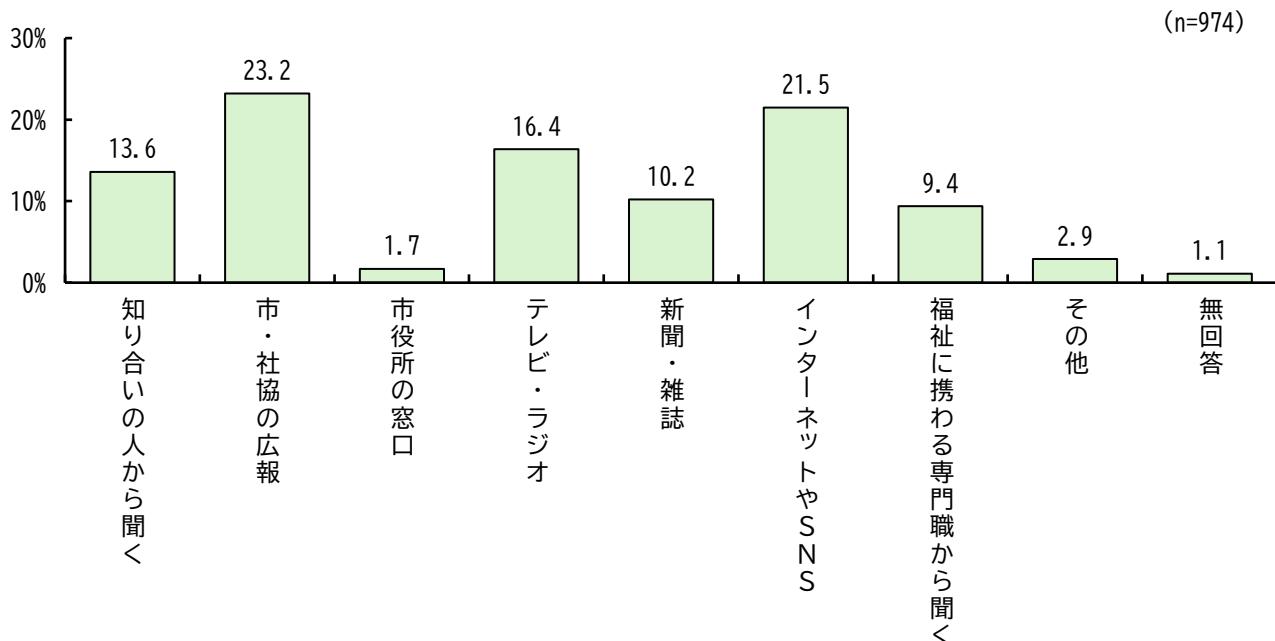
福祉への関心では、「ある程度関心がある」が54.2%と最も多く、次いで「あまり関心がない」が16.6%、「とても関心がある」が14.2%などとなっています。

経年でみると、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』は、平成27年の調査では73.9%ですが、令和6年の調査では68.4%に減少しています。

③福祉についての情報や知識の主な入手先

問10 あなたは、福祉についての情報や知識を主にどのように得ていますか。

(○は1つだけ)

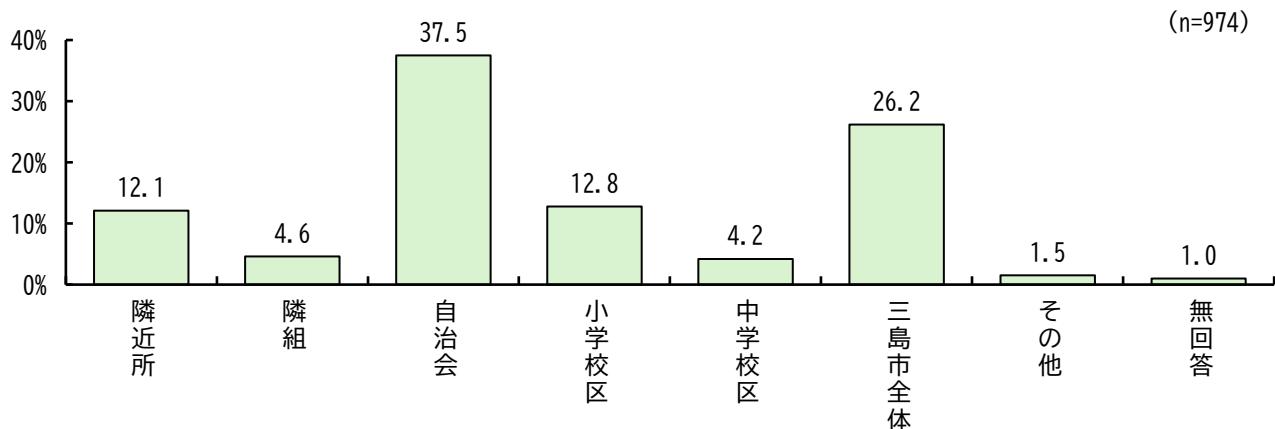


福祉についての情報や知識の主な入手先では、「市・社協の広報」が23.2%と最も多く、次いで「インターネットやSNS」が21.5%、「テレビ・ラジオ」が16.4%などとなっています。

④地域だと考える範囲

問13 あなたが「地域」と考える範囲はどれですか。

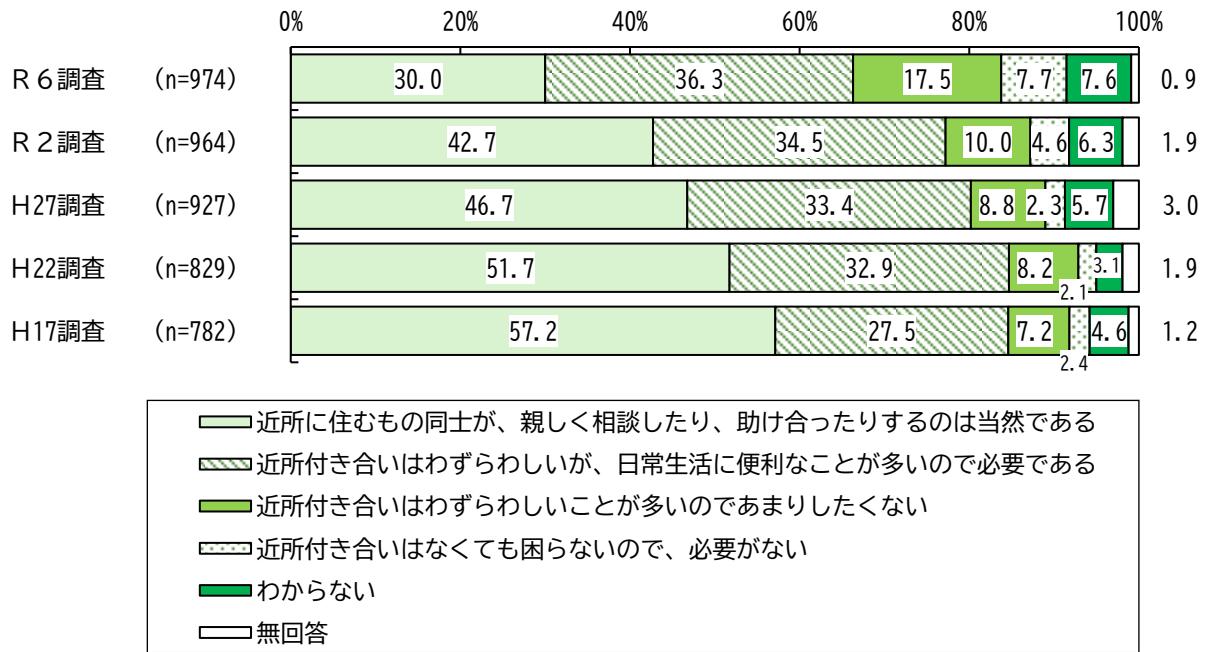
(○は1つだけ)



地域だと考える範囲では、「自治会」が37.5%と最も多く、次いで「三島市全体」が26.2%、「小学校区」が12.8%などとなっています。

⑤近所付き合いの考え方

問17 あなたの近所付き合いの考え方は、次のどれに近いですか。 (○は1つだけ)



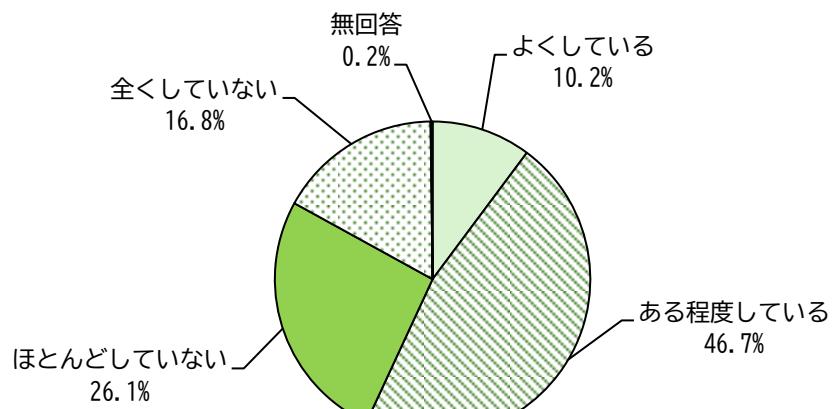
近所付き合いの考え方では、「近所付き合いはわずらわしいが、日常生活に便利なことが多いので必要である」が36.3%と最も多く、次いで「近所に住むもの同士が、親しく相談したり、助け合ったりするのは当然である」が30.0%、「近所付き合いはわずらわしいことが多いのであまりしたくない」が17.5%などとなっています。

経年でみると、「近所に住むもの同士が、親しく相談したり、助け合ったりするのは当然である」は、平成17年の調査では57.2%ですが、令和6年の調査では30.0%まで減少しています。

⑥地域内の行事や自治会活動への参加・協力

問18 あなたは現在、地域内の行事や自治会活動に参加・協力していますか。

(○は1つだけ)

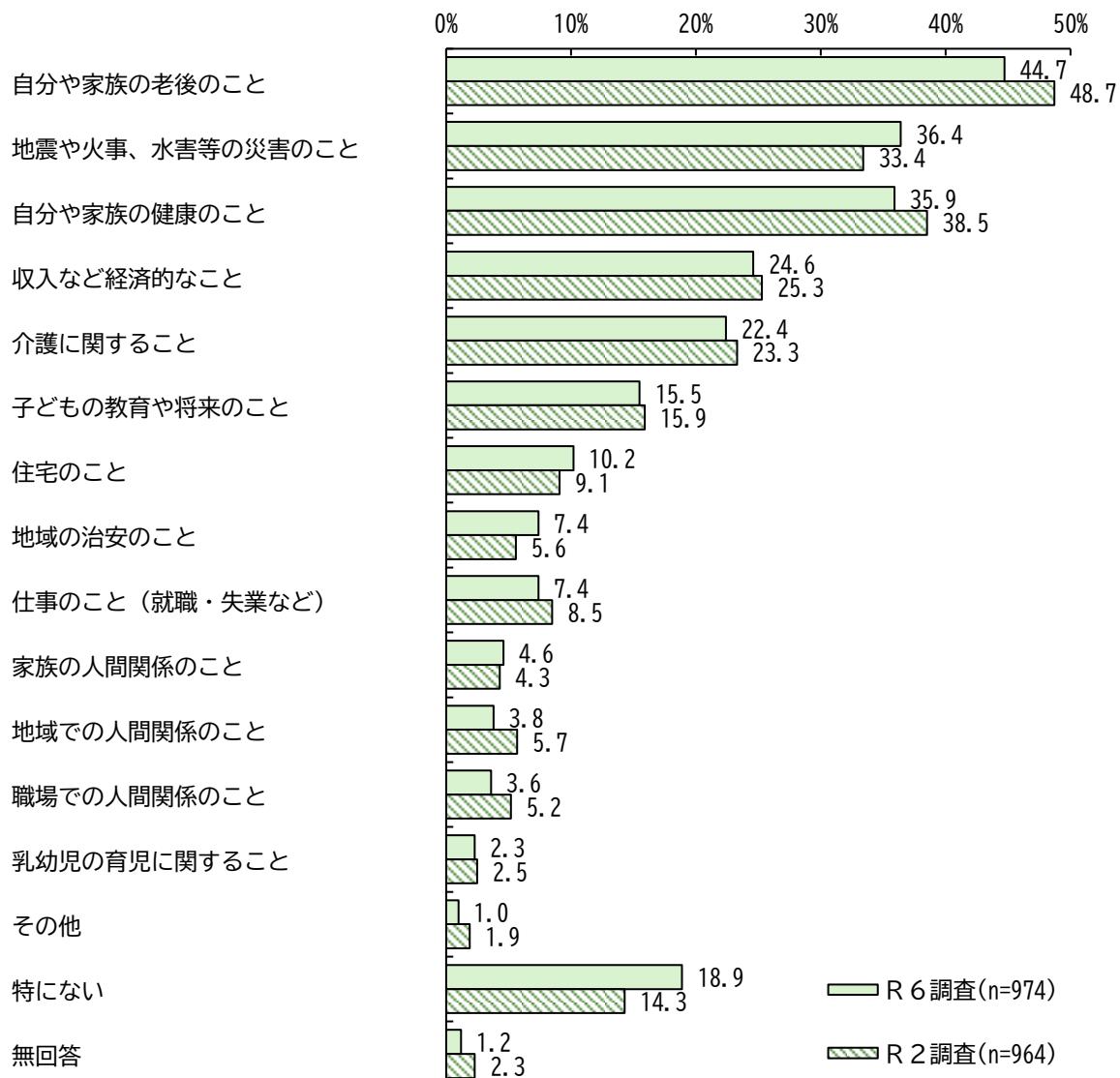


(n=974)

地域内の行事や自治会活動への参加・協力では、「よくしている」が10.2%、「ある程度している」が46.7%、「ほとんどしていない」が26.1%、「全くしていない」が16.8%となっています。

⑦日々の生活で困っていること、悩みや不安を感じていること

問21 あなたやご家族が日々の生活で困っていること、悩みや不安を感じていることはありますか。
(○はあてはまるものすべて)

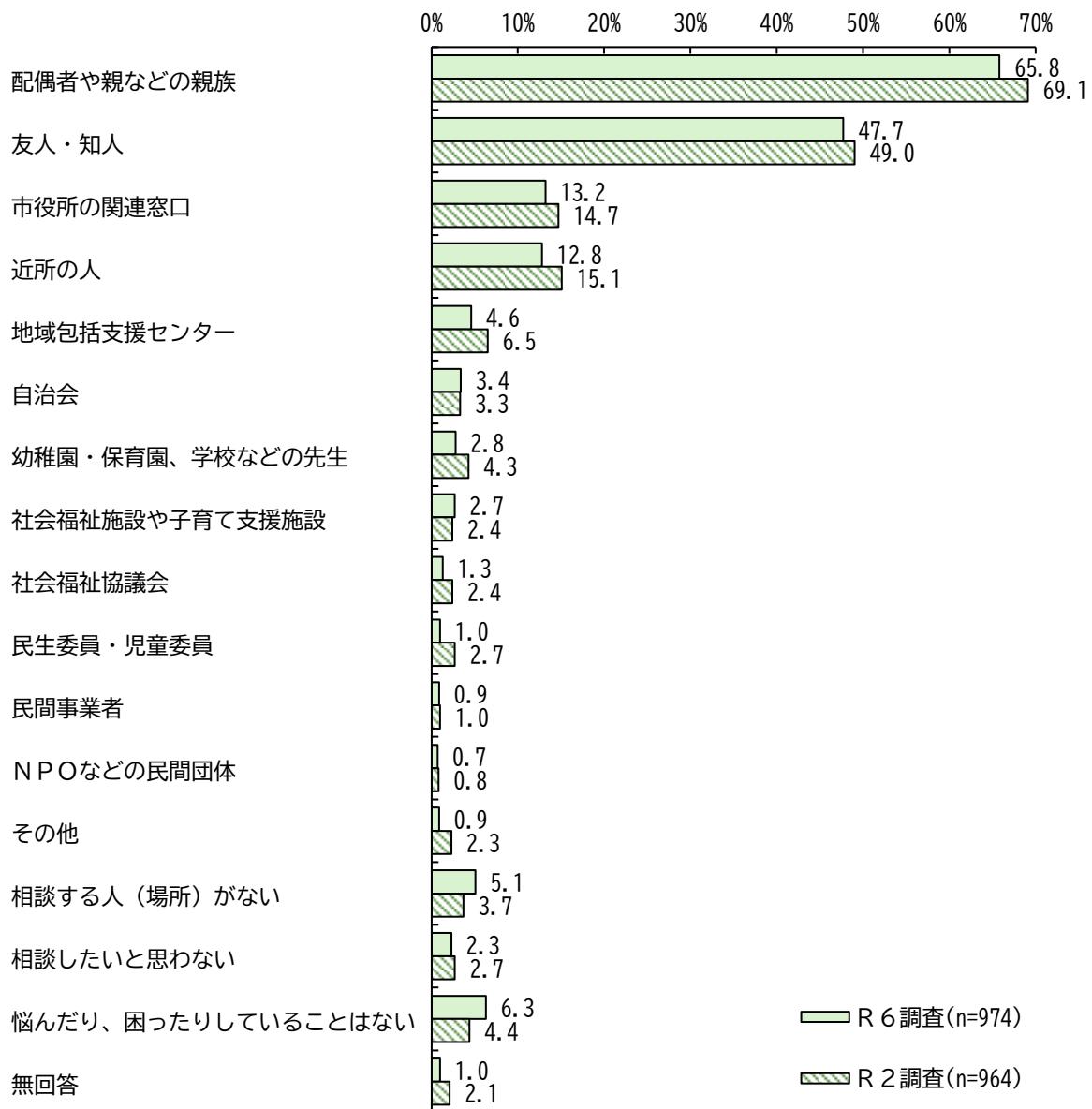


日々の生活で困っていること、悩みや不安を感じていることでは、「自分や家族の老後のこと」が44.7%と最も多く、次いで「地震や火事、水害等の災害のこと」が36.4%、「自分や家族の健康のこと」が35.9%などとなっています。

経年でみると、大きな差はありませんでした。

⑧地域生活の中での悩みや困りごとの相談先

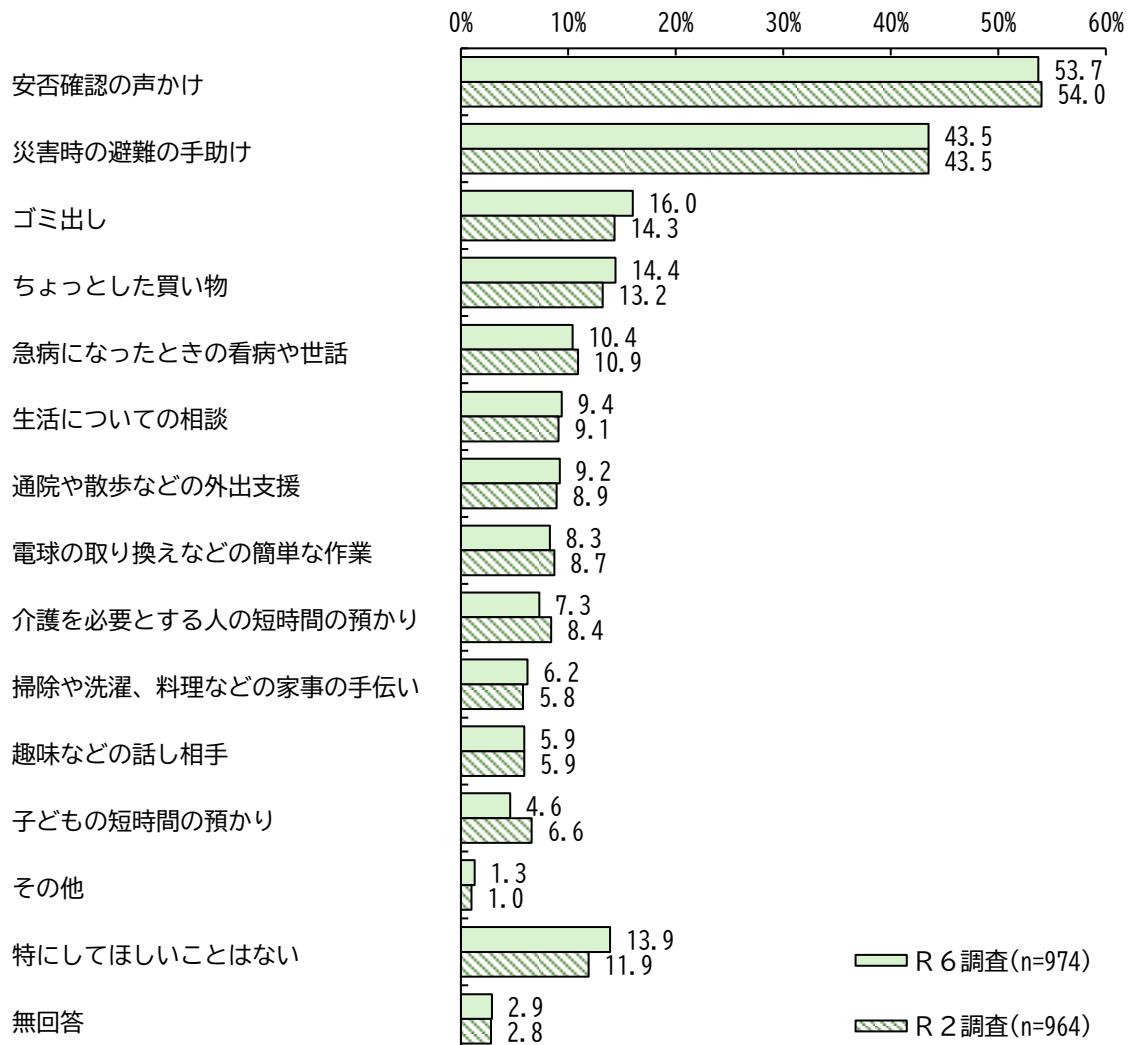
問22 あなたが、地域生活の中での悩みや困りごとを相談できる先は誰（どこ）ですか。
(○はあてはまるものすべて)



地域生活の中での悩みや困りごとの相談先では、「配偶者や親などの親族」が65.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が47.7%、「市役所の関連窓口」が13.2%などとなっています。
経年でみると、大きな差はありませんでした。

⑨助けが必要になったときに地域にしてほしい支援

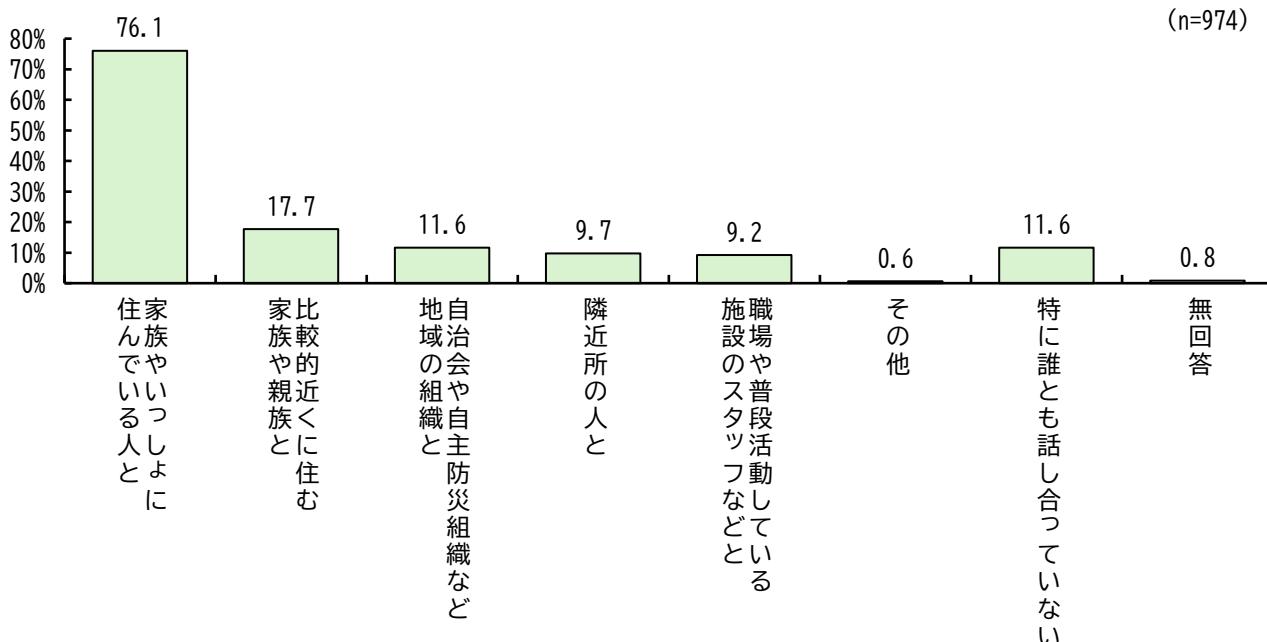
問24 あなたや家族に助けが必要になったとき、地域にどのような支援をしてほしいと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)



助けが必要になったときに地域にしてほしい支援では、「安否確認の声かけ」が53.7%と最も多く、次いで「災害時の避難の手助け」が43.5%、「ゴミ出し」が16.0%などとなっています。
経年でみると、大きな差はありませんでした。

⑩災害時や緊急時の連絡のとり方や避難の方法などについての誰かとの話し合い

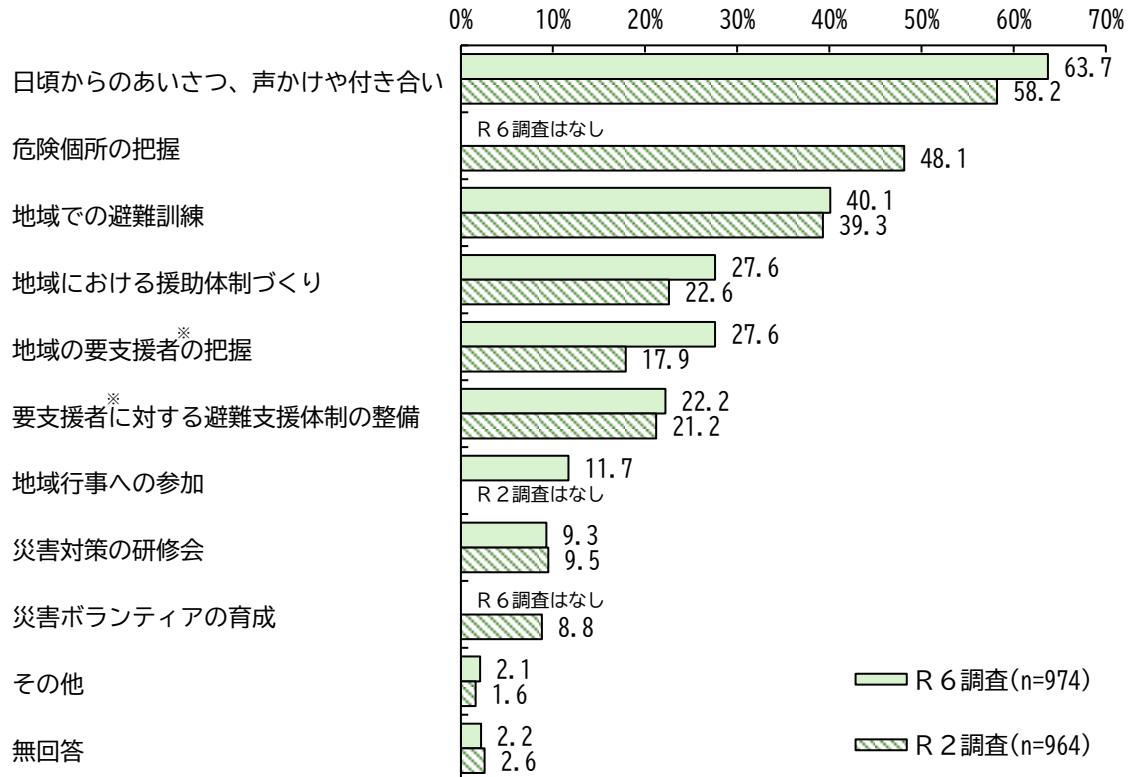
問27 あなたは、災害時や緊急時の連絡のとり方や避難の方法などについて、誰と話し合っていますか。
(○はあてはまるものすべて)



災害時や緊急時の連絡のとり方や避難の方法などについての誰かとの話し合いでは、「家族やいっしょに住んでいる人と」が76.1%と最も多く、次いで「比較的近くに住む家族や親族と」が17.7%、「自治会や自主防災組織など地域の組織と」が11.6%などとなっています。また、「特に誰とも話し合っていない」が11.6%となっています。

⑪地域における災害時の備えとして重要だと思うこと

問28 あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いま
すか。(○は3つまで)



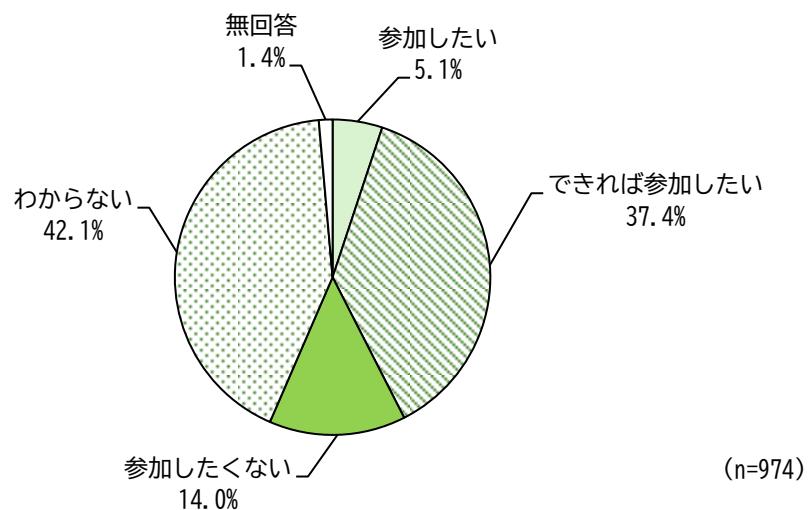
※「要支援者」はR 2調査では「要援護者」

地域における災害時の備えとして重要だと思うことでは、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が63.7%と最も多く、次いで「地域での避難訓練」が40.1%、「地域における援助体制づくり」と「地域の要支援者の把握」が27.6%などとなっています。

経年でみると、「地域の要支援者の把握」は令和2年の調査では17.9%ですが、令和6年の調査では27.6%まで増加しています。

⑫地域での支え合いへの参加

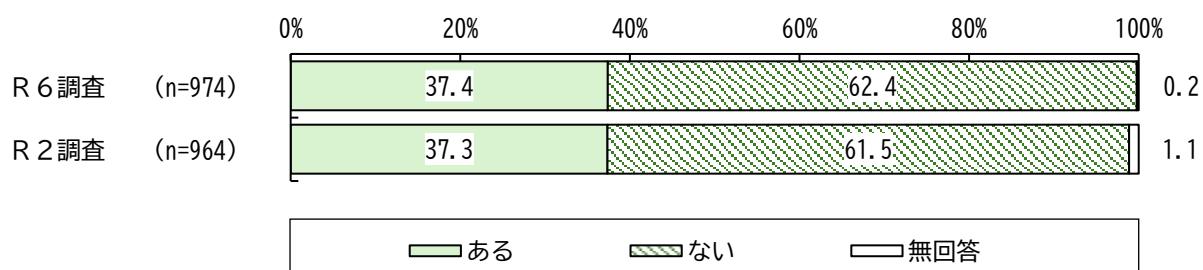
問32 日常生活をする上で困っている人、高齢者、障がい者、子育てなどに対する地域での支え合いに参加したいと思いますか。 (○は1つだけ)



地域での支え合いへの参加では、「参加したい」が5.1%、「できれば参加したい」が37.4%、「参加したくない」が14.0%、「わからない」が42.1%となっています。

⑬ボランティア活動への参加

問33 あなたは、ボランティア活動に参加したことがありますか。 (○は1つだけ)

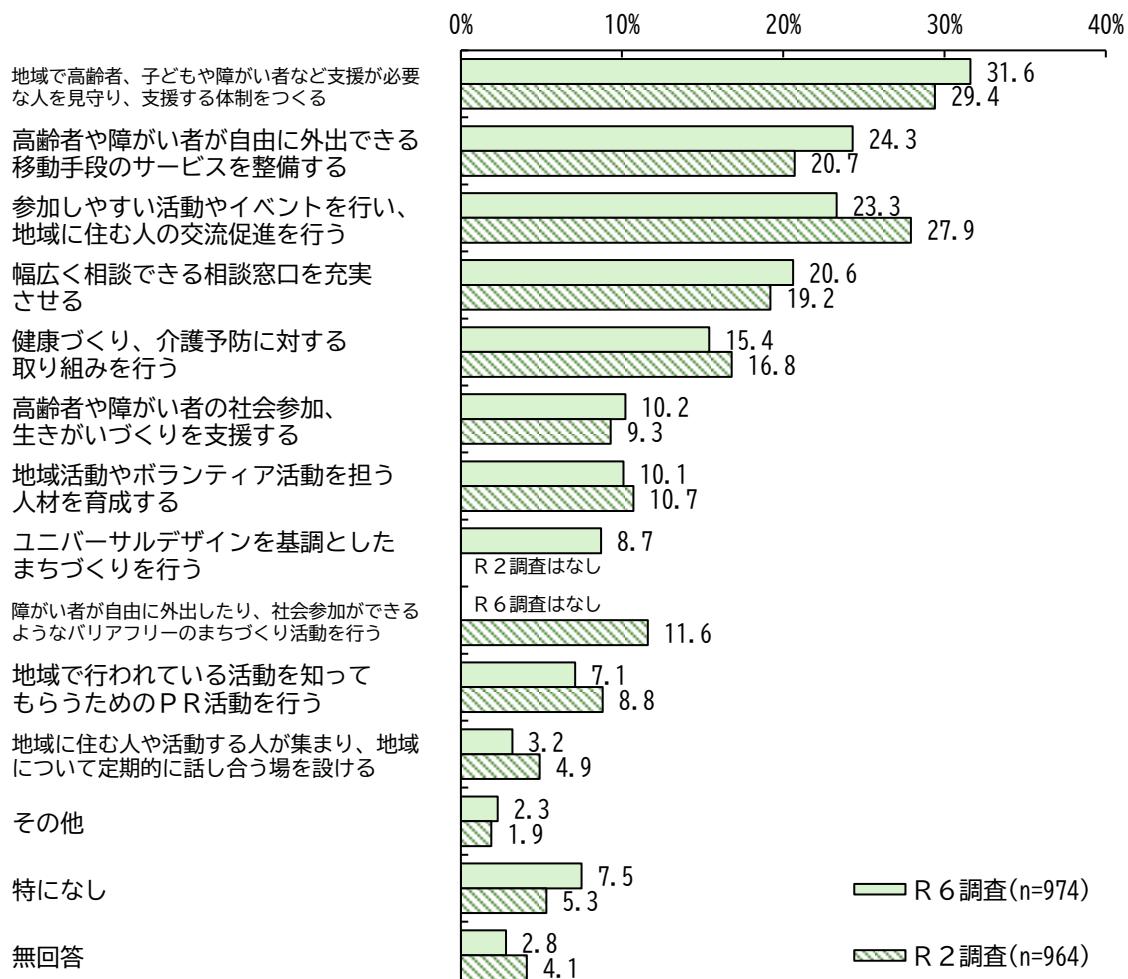


ボランティア活動への参加では、「ある」が37.4%、「ない」が62.4%となっています。

経年でみると、大きな差はありませんでした。

⑭地域がより住みやすくなるために必要な活動

問36 あなたは、今後地域がより住みやすくなるためには、次のうち、どのような活動を行った必要があると思いますか。
(○は2つまで)

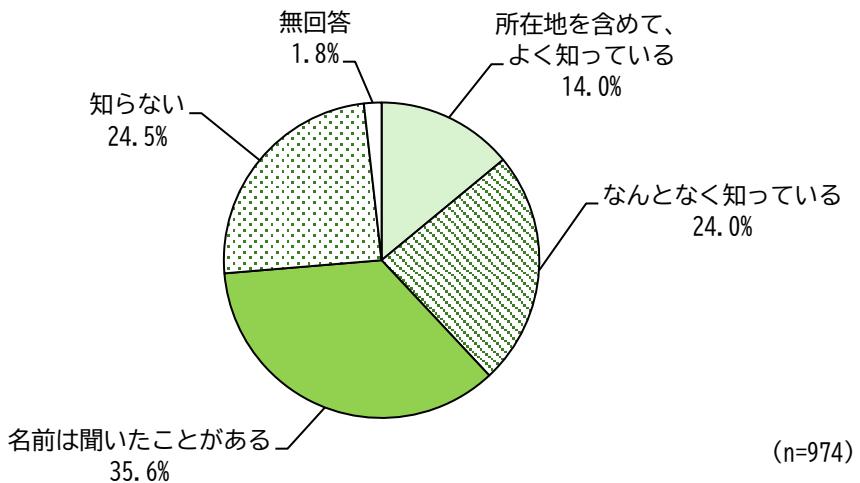


地域がより住みやすくなるために必要な活動では、「地域で高齢者、子どもや障がい者など支援が必要な人を見守り、支援する体制をつくる」が31.6%と最も多く、次いで「高齢者や障がい者が自由に外出できる移動手段のサービスを整備する」が24.3%、「参加しやすい活動やイベントを行い、地域に住む人の交流促進を行う」が23.3%などとなっています。

経年でみると、大きな差はありませんでした。

⑯三島市社会福祉協議会の認知

問47 三島市社会福祉協議会は、誰もが安心して暮らせるまち・三島市を目指し、地域の住民の方とともに地域福祉の推進を図る民間団体です。あなたは、三島市社会福祉協議会を知っていますか。
(○は1つだけ)



三島市社会福祉協議会の認知では、「所在地を含めて、よく知っている」が14.0%、「なんなく知っている」が24.0%、「名前は聞いたことがある」が35.6%、「知らない」が24.5%となっています。

Ⅲ 結果からみえる課題

①福祉との関わりについて

「福祉の仕事をしている」、「ボランティアをしている」、「NPO活動をしている」、「その他」を足すと令和2年の調査では14.1%、令和6年の調査では13.5%とほぼ変わりません。

「特に関わりはない」は79.2%となっており、福祉に关心をもっていない人への情報発信が重要です。

②福祉への関心について

「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』は、平成27年の調査では73.9%、令和2年の調査では72.4%、令和6年の調査では68.4%と減少傾向にあり、各年代に関心を持つてもらう必要があります。

③福祉についての情報や知識の主な入手先について

「市・社協の広報」、「インターネットやSNS」、「テレビ・ラジオ」が比較的高い割合となっている傾向は変わっていませんが、その中で「インターネットやSNS」の割合が上昇しています。福祉情報の取得方法が変化してきているため、様々な媒体を使用した情報発信が必要です。

④近所付き合いの考え方について

「近所に住むもの同士が、親しく相談したり、助け合ったりするのは当然である」は、平成17年の調査では57.2%、令和2年の調査では42.7%、令和6年の調査では30.0%と減少傾向にあります。若年層において意識の差があるため、若年層を中心に地域住民同士のつながりを強化していく必要があります。

⑤地域生活の中での悩みや困りごとの相談先について

市役所の関連窓口や地域包括支援センターといった公的機関を相談先に選ぶ人が少ないため、相談機関や相談窓口の場所や開所時間等の情報発信を行う必要があります。

⑥災害時や緊急時の連絡のとり方や避難の方法などについての誰かとの話し合いについて

「自治会や自主防災組織など地域の組織と」話し合っている人は、令和2年の調査が10.2%、令和6年の調査は11.6%とほぼ変わりません。引き続き地域の組織との連携の強化や情報共有が重要です。

⑦社会福祉協議会の認知について

「所在地を含めて、よく知っている」、「なんなく知っている」、「名前は聞いたことがある」を合わせた『社会福祉協議会の認知』は73.6%と、認知は広がっています。今後も認知度を上げる取り組みを継続していく必要があります。

令和6年度
三島市
地域福祉計画策定のためのアンケート調査
【報告書】

<抜粋版>

令和7年3月

三島市 福祉総務課 福祉総務係
〒411-8666 三島市北田町4-47
TEL：055-983-2610（直通）